

練習試合の結果

10日(土) 対日比谷高校

第1試合 10対8 勝利

第2試合 途中まで

11日(日) 対所沢商業高校

第1試合 4対8 敗退

第2試合 8対8 引分

12日(月) 対浦和学院高校

第1試合 3対1 勝利

第2試合 途中まで

通算成績 28勝 17敗 3分

マネの活躍



長いこと球場勤務していますが、ここまで雨の影響を受けた大会は始めてでした(令和8年秋季県大会、備忘録)。

マネが頑張りました。

写真を掲載させていただきます。

秋季県大会雑感

秋季県大会は西武台高校が優勝、山村学園高校が準優勝という結果になり、この両校がこのあと行われる関東大会に出場することとなりました。

公立高校所属という立場からすると、今大会は、厳しい現実を突きつけられる大会結果になりました。1・2回戦で私立を倒した公立は上尾高校のみ、ベスト8には1校も残れず準々決勝以降は私立高校大会状態・・

ここ最近の埼玉県は、私立高校の中でも花咲徳栄高校と浦和学院高校が2強といわれてきましたが、今大会を観て感じたのは、他私立が独自色を出して、この2強に勝負を挑んでいるというものでした。上記2校が全国から優秀な人材を集めているのに対し、他私立も(県内や近隣他都県から)その独自色を出しやすい人材を確保しているように感じました。

A高校・・とにかく身体が大きい(今後でかなりそうな子)を集め、その子達にパワフルなバッティングをさせて勝負

B高校・・機動力野球の発揮を前面に出し、走力のある子を入部させ、その子達にバントやエンドランの技術を身につけさせて勝負

C高校・・2強を抑えられるのではないかとというバッテリーを入部させ、守備面を強化して勝負

D高校・・中学生の時点では野球の技術より人物重視、面接試験等に重きを置き、入学後の「伸び」で勝負

さて・・私達公立高校はどう戦えば良いのでしょうか?同じ土俵に引き摺り込むことができるかがポイントだと思います。私立の力が100、公立の力が50とした場合、私達公立が100に近づこうとするのではなく、私立の力を50まで落とせるか(本来の力を出させない)・・今大会、浦和学院と初戦で戦った坂戸高校(公立)はそのお手本(5回まで1対1の同点でした)のような戦いを展開していました。

進学校らしく・・頭を使いたいと思います。